活

第８号

茨城県労災保険指定医協会
「活」編集委員会
発行責任者　石　島　弘　之
〒310-0852　水戸市笠原町４８９
TEL 029-243-5701 FAX 029-243-6530
E-mail : i-roukyo@mito.ne.jp

昨日、今日、明日

監事　中村　尚

平成２０年６月１９日、茨城県労災指定医協会創立５０周年記念祝賀会が盛大に行われ、無事終了いたしました。当協会の運営に関わってこられました諸先輩方及び会員の先生方に心より感謝申し上げます。

当協会が設立された５０年前は、昭和３３年。大きな出来事を調べてみると、日本の人口は約９３００万人、６年後の昭和３９年の東京オリンピック開催を目指し東京では建設ラッシュとなり、郡部から都市部への大幅な人の移動が起きた。この時点でも都市部のほうが人口は多かった。１世帯当たりの１ヶ月の所得は、約２万５千円、チキンラーメンが３５円で発売され、スバル３６０、ホンダスーパーカブも発売された。東京タワーも完成し１２月より一般公開された。スポーツ界では、読売巨人軍の川上哲治が引退、長嶋茂雄が入団し四連続三振の鮮烈なデビューを飾った。日本が高度成長を向かえる直前の時代で、映画「三丁目の夕日」にも見られるように、何か明るい未来に向かって走り出している雰囲気があった。こつこつと真面目に働いていれば、何とかなるといわれた時代である。

今年、平成２０年の日本の人口は約１億２７００万人。平成１８年に総人口のピーク（約１億２７７０万人）を過ぎ、人口は減少に転じた。ガソリンの高騰や食料品の値上げで庶民の生活は苦しくなってきている。また、コンピューター、インターネットが世界中に広がり、グローバル化が叫ばれている。会社においては市場原理主義の考えの下、生産性向上の為、正規雇用者を減らし非正規雇用者が多くなった。多くの若者が、非正規雇用者の派遣社員の待遇で日々の生活にも困窮している。また、社会保障（医療、年金など）の破綻により高齢者ばかりでなく、若者にも将来への不安が高まっている。土浦駅や秋葉原の無差別殺人事件のように、社会と上手く繋がりがもてない若者による理不尽な事件も多く起きている。何か大きな閉鎖感に満ち溢れている時代である。こつこつ真面目に働いていても報われない時代となってしまった。

５０年後は２０５８年。第一生命経済研の須藤一紀氏のレポートによると、日本の人口は、２０５０年に約１億人、２１００年には約６２００万人と予測している。しかし、最悪の予測（出生率低、死亡率高）では、２０５８年には約９０００万人となる。その時の日本は？これは全く予測できない。もう少し近未来で確実に起こるといわれていることは、地球温暖化によりマラリアなどの熱帯病の流行、温暖化による世界規模での砂漠化の広がりで穀類などの食物生産が落ち込み、そして飢餓の時代がやってくる。食料品の自給率の低い日本では食糧危機が早期に訪れるであろう。これで、５０年後も日本という国は無事に存在しているのだろうか？暗い予想しかできないが、人間の英知で、この暗い予想を覆して欲しい。５０年前の昨日は、貧しかったけれど希望に満ちていた。現在の今日は、豊な生活を手に入れたが、社会に綻びが目立ち閉鎖感に充ち溢れている。

そして、５０年先の日本の明日は？

５０周年記念事業を終えて

実行委員長　小松崎　睦

さる平成２０年６月１９日（木）に水戸京成ホテルにて６０数名の参加者を得て茨城県労災保険指定医協会創立五十周年記念事業として記念式典が執り行われました。

２年ほど前より記念事業の一環として記念式典と記念誌の発行が考えられ各委員が夫々の役割を踏まえて委員会を開き、当日の遺漏なき事を念じつつ協議を開きました。

主催者あいさつをする石島会長

昭和３３年に県医内に労災協会が発足し（県によっては名称の差はある）日医とは一線を隔して活動しました。昭和５９年には茨城県がリードして全国連合会を発足しようとしましたが、残念ながら全国レベルでは纏りませんでした。その時の活動内容は先輩達から色々と面白い話を聞いております。最近になって全国組織化の必要性が感ぜられ少しずつ話題に上っております。

記念事業実行委員を拝命してから何回かの会合が開かれ、内容では記念誌の割り振り編集の仕方、執筆者へのお願い、製本の出来上がり方等を議論しました。又式典というメインイベントの事は特に力をいれ、参加者の選定から各委員の業務、講演者の選定および依頼、永年功労者の表彰、事業費（予算）の捻出等行わなければいけない案件が多く、各委員の先生方には何回もご足労をお掛けいたしました。

感謝状を受取る後藤前会長

記念式典の当日は理事の先生方には５時に集合していただき、５時３０分受付開始、６時より式典開式、石島会長よりご挨拶があり来賓の紹介、来賓を代表して茨城県医師会長原中先生と茨城労働局長浅田氏より祝辞をいただきました。次に感謝状の授与（山本修先生、後藤昇先生、武士元事務局長）、祝電披露の後、講演会に移りました。

講演者は千葉大学名誉教授・現鹿島労

ユーモアたっぷりに相撲界の裏話を披露する守屋先生

災病院院長守屋秀繁氏にお願いし、テーマは“教授から横綱審議委員へ”と題して１時間の楽しい講演がありました。内容は守屋氏の人となりが反映され酒脱で時には内幕ばらしに近い相撲の面白さが出ておりました。（因みに守屋氏は私の後輩に当たるので私の個人名なぞが出てドギマギ慌てる場面もありました）

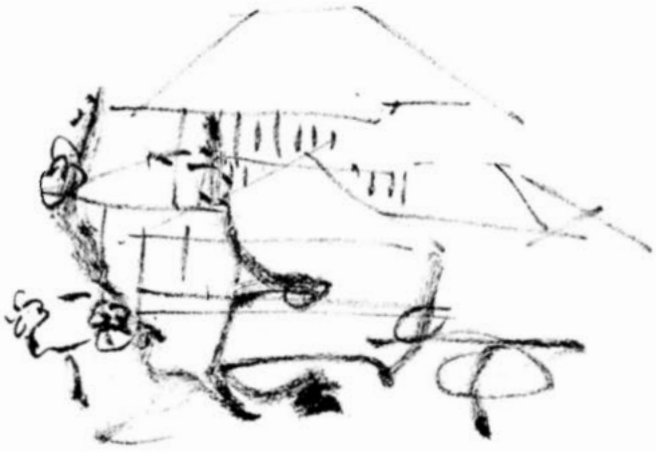
守屋氏の専門は膝関節の整形外科で、人工関節の進歩、有名なアスリートの膝なぞ（プロゴルファー）を紹介していただきたいへん勉強になり、有意義な一時を過ごしました。

その後７時より祝賀パーティとなり参加者夫々が和気藹々のうちに時間の経つのも忘れるほど盛り上がりましたが、残念ながら時間の都合上９時には田崎常任理事による一本締めでお開きとさせていただき、次の１０年間の協会事業をお約束して散会となりました。

最近の１０年間の流れは各医療機関のＲＩＣへの協力と協会誌“活”の発行があります。特に“活”は会員相互の自由な発言と会からの連絡用とに活用されております。皆様の意見の泉として今後も継続してゆくつもりです。

イ・ソリスティ・イバラキの皆さんのすてきな演奏がパーティを盛り上げてくれました

記念事業を無事終了出来たことは会員の弛まぬご協力と、特に事務局の献身的な努力によるものと感謝に耐えません。



お詫びと訂正

先に発刊しました「協会創立５０周年史」の中で間違いがありました。

Ｐ１４９　Ｌ１６

「社会**正義**は達成できる」です。

訂正をお願いいたします。

田崎先生には深くお詫び申し上げます。

労災診療、内科系の最近の動向

鹿島労災病院　名誉院長　　佐藤重明

労災診療の対象疾患の多くは外科系がしめており内科系の比率はごく僅かである。有機溶剤や化学物質などは使用頻度が非常に多いにもかかわらず中毒や疾病事例は少なく、圧倒的に多いのは依然としてじん肺であるが、最近、石綿による肺がんや悪性中皮腫の症例が散見されるようになった。労災疾病・内科系呼吸器疾患の最近の傾向やその背景について考察してみたい。

じん肺

疫学的にみると我が国のじん肺は、産業構造の変化や労働衛生の改善により確実に減少している。“労働衛生のしおり”などによると粉じん作業に従事する労働者の数もここ４半世紀で６０万人弱から３６万人ほどに減少している。

粉じん作業に従事する労働者は「じん肺法」により定期健康診断を受けることが義務付けられている。そのじん肺健診の結果をみると、有所見者数は１９８５年は４万人弱、有所見率にして約１５％だったのが、２００５年にはそれぞれ７３００人、約４％と減少している。また、じん肺程度でみると、２００５年では管理２が８７．８％、管理３は１１．９％であり、療養を要する管理４は０．２％・１２名であった。全体として軽症化していることがうかがえる。

一方、過去に粉じん作業歴のある労働者から申請されるいわゆる随時申請の数は１９８０年代は４０００件前後であったが、ここ１５年近く毎年３０００件前後であまり減少していない。そのほとんどは、じん肺定期健診ではなく、日常診療で発見されるケースが多く、合併症保有率が高いことが特徴である。その原因としては労働者の高齢化もあるが、加齢とともに顕在化した慢性疾患や喫煙などの生活習慣が、じん肺病変を修飾し複雑化していることが大きな要因であることが指摘されている。

じん肺の合併症としては、肺結核、結核性胸膜炎、続発性気管支炎、続発性気管支拡張症。続発性気胸があるが、２００４年４月より肺癌も認められるようになった。合併症の保有率としては、前述のごとく「じん肺法」による健診では減少しているが随時申請のケースでは高率である。ちなみに、２００４年度では、合併症６３８件のうち、肺結核３９件（6．1%）、結核性胸膜炎５件（0．8%）、続発性気管支炎４９４件（７７．４%）、続発性気管支拡張症１０件（１．６%）、続発性気胸１８件（２．８%）、原発性肺癌７２件（１１．３%）であった。高齢化しているじん肺患者の合併症としての肺癌は今後さらに増加することが予想される。労災としても職業癌としてその動向に注目すべきである。

石綿による肺・胸膜疾患

石綿はある特定の鉱物ではなく、異なった元素組成、結晶構造の何種類かの鉱物を含んでいる。それらの鉱物が繊維状（asbestform variety）となっているものを採掘、加工して得られる。特性としては、弾力にとみ不燃性、耐酸性、耐ア

ルカリ性、耐熱保湿性、電気絶縁性、吸湿性にすぐれ、加工が簡単で、しかも安価であったため２０世紀には大量に採掘され利用された。種類としては、蛇紋石系のクリソタイル（白石綿・温石綿）角閃石系のクロシドライト（青石綿）・アモサイト（茶石綿）・アンソフィライト・トレモナイト・アクチノライトの６種がある。それぞれ組成、物理化学的特性が種類によりいくらか異なるが、優れた特性、用途や製品はほぼ同一であり、もっともよく使用されたのは青、茶、白石綿である。人体影響の面では、中皮腫をひきおこす危険性は青＞茶＞白石綿であり、発癌性も角閃石系がもっとも強い。

２０世紀前半、石綿工業のはじまりの頃、作業場の管理対策は貧しく、粉じん濃度が高かった。そこでの健康障害は急速に進展する重症の石綿肺が主病像で、労働者の平均寿命は著しく短かった、対策の進展に伴い寿命は確実に延びたが、それとともに肺癌が直接死因となり始めた。１９３０～１９４０年代、石綿肺や胸膜悪性腫瘍についての報告が散見されていたが、１９５９年ヨハネスブルクで開かれた国際じん肺会議における南アフリカのクロシドライト鉱山労働者、家族、近隣住民の３２名の悪性中皮腫の発生の報告は石綿暴露と中皮腫の関連性について大きな関心を集めた。かなり以前から、石綿暴露をうけた症例に肺癌や中皮腫が発症する頻度がたかいことが気づかれてはいたが、初めて国際的な合意として明らかにされたのは１９６５年で、「石綿とがん」に関するワーキンググループが石綿暴露と関連したがんとして肺癌と胸膜及び腹膜の中皮腫をあげ、その後の必要な研究方針について勧告を行ったのが転機となった。一方、我が国の石綿暴露の現状は輸入・消費が急激にのびた１９６０年頃から２０年を経過した１９８０年頃より悪性中皮腫による死亡者が増え始めている。また、肺癌も注目されている。従来、石綿による肺癌は高濃度暴露により発生する石綿肺の肺繊維化が発癌のメカニズム上重要であると考えられていた。しかし最近では石綿肺を合併しない肺癌の存在が明らかになり石綿自体の発癌性を重視する考えが大勢である。中皮腫以外に低濃度暴露により発症する疾患には、良性石綿胸水、胸膜プラーク（胸膜肥厚）、びまん性胸膜線維症などがある。石綿の種類や暴露の程度、期間によって危険度は異なるが、いずれにせよ暴露から発症まで１０～４０年と非常に長い。例えば、１９９９～２００１年の３年間に、中皮腫として労災認定された９３件の発症までの期間は１１．５～５４．２年（平均３８年）であった。

決断はけっして早くはなかったが、２００６年９月以降、石綿の輸入、製造、使用などは全面禁止となった。我が国の過去の石綿使用量と、健康障害をひきおこすまでの長い潜伏期間、さらに石綿が使用され残存している建築物、車両、船舶などの解体、除去作業では新たな暴露の機会もあり、今後石綿関連疾患が増加することは疑いの余地がない。推計によると中皮腫患者のピークは２０２５年ごろ、予測死亡数は１０万人を超えると言われている。

２０世紀、大量に消費された石綿が原因となる健康障害への対策の本番はこれからである。

さぁ 選挙だ！

茨城県医師連盟副委員長
労災保険指定医協会常任理事
小 松 満

９月１７日茨城県医師連盟は県庁記者クラブで記者説明会を開き、次の衆議院議員選挙において茨城１区から７区までのすべての選挙区で民主党の候補者を推薦することを発表した。

すでに１区や６区で自民党候補ではなく民主党候補を推薦するとの報道がなされていたため茨城県医師連盟の動きは注目の的であった。テレビが６局、新聞が２０紙くらい集まっていた。原中委員長が推薦者名簿を配り１区から７区まで全員が民主党候補であると発表すると質問が殺到した。その後の反響の大きさはすさまじいものである。

昨年の参議院議員選挙で自見庄三朗氏を推薦し、日本医師連盟に反旗を翻したことはまだ記憶に新しい。自見氏を当選させることができ茨城県医師会の名を全国にとどろかせることができた。

４月には後期高齢者医療制度撤廃の運動を全国の医師会に先駆けて展開し、２０万１，１２２名の署名を獲得した。茨城県医師会の活動には高齢者を中心に多くの国民の賛同を得た事は実に喜ばしい。

９月２０日には舛添厚労大臣が後期高齢者医療制度の全面的な見直しを口にせざるを得なくなった。その後、発言は後退気味であるが厚労省を追いつめた事は自慢しても良いだろう。

今回衆議院議員選挙候補者に後期高齢者医療制度撤廃に賛成か反対かをはじめとしたアンケートを行った。候補者には踏み絵となり自民党候補者にはきびしいものであったが、署名してくれた２０万１，１２２名の気持ちを鑑みるといたしかたがない。

推薦者決定まで３回の医師連盟委員会が開催された。討論の流れが反自民になっているため自民支持者は声を上げられないのではないかと考えていたのだが全くの思い違いであった。７月１２日の常任委員会に提出された執行部案には自民党候補者の名もあがっていたのだが、まったく賛同は得られなかった。出席委員の誰一人として自民党の名を発しなかったのである。時代の変化を感じざるを得ない。

保守王国と言われる茨城県において自民党支持の牙城であった医師連盟が民主党候補支持を打ち出したことは全国に衝撃を与えた。日本医師会は直ちに反応し、各都道府県医師会に自民党支持であることをファックス送信した。茨城県医師会の反乱と捉えているようだ。他に追随する医師会をなんとしても阻止したいのだ。つける薬がない。恐らく他の都道府県医師会で茨城県医師会と同一歩調を取る医師会は出てこないであろう。それでも茨城県医師会は前に進まなければならない。

平成維新なる言葉も出ているようだ。衆議院議員選挙で茨城県医師連盟の推薦する候補をなんとしても当選させなければならない。今回の選挙で結果を出せなければ茨城県医師会は二度と全国に向かって発信することはできなくなる。

茨城県医師会が勝利することで日本医師会の現執行部の政権与党べったりの方針を転換させ、厚労省の医療費削減政策を撤回させなければならない。

医療を官僚の手から国民の手に大政奉還させなければならない。

千載一遇のチャンスである。この機会を逃せば医療を国民の手に取り戻す事は永久にできないであろう。

世界に冠たる日本の医療を守るため、国民の健康と生命を守るため、われわれ医療従事者の生活を守るため全力を尽くそう。

ぜひ、茨城県医師連盟の決定に賛同し、行動して頂きたい。

労災診療費指導委員会

当協会では茨城労働局と協力し、毎月県内の労災診療のレセプトの審査を行っております。少しでも請求ミスがなくなるよう、これからも正しい目で続けていきます。９月から新任期となり当協会の石島会長が委員長に就任し、委員会のメンバーが一部替わりました。よろしくお願いいたします。

氏　名	所　　属	診療科目
石島　弘之	石島整形外科医院長	整形外科
山邉　　登	県立中央病院名誉院長	整形外科
広瀬　一郎	独行水戸医療センター整形外科医長	整形外科
宍戸　　大	水戸中央脳外科院長	脳外科
鏡見　　勝	鹿島労災病院副院長	内科
山本　　修	山本眼科医院長	眼科
石井　隆志	石井外科内科医院長	外科・内科
田崎　喜昭	田崎外科医院長	外科
宮本　晋行	宮本医院長	整形外科
茂呂　公夫	茨城労働局地方労災医員	整形外科
栗山　　栄	栗山整形外科院長	整形外科
大祢　廣伸	中央大祢整形形成外科院長	整形外科・形成外科
土沢　正雄	土沢整形外科院長	整形外科
秋山　三郎	秋山クリニック院長	外科
中村　　尚	中村整形外科医院長	整形外科

指導委員会だより

～～リハビリテーションについて～～

リハビリテーションを継続して行う患者さんには「労災リハビリテーション評価計画書」を出していただいておりますが、委員会は、「患者さんを一番よく知っているのは現場のお医者さんである」という立場をとっておりますので、「評価計画書」を重要視いたします。

まだ良くなる可能性があるかどうか、なぜ必要なのか、いつ頃まで必要と思われるか等、わかりやすくお書きください。

（石井：労災診療費指導委員）

◆新規指定医療機関◆

医療機関名	所在地	代表者	診療科目	指定日
医）アスムス 生きいき診療所	結城市	太田秀樹	内、外、整外、皮	20.01.01
医）悌仁会　つちだ内科 泌尿器科クリニック	ひたちなか市	土田　誠	内、泌、外、小	20.05.01
もりもとクリニック	守谷市	森本裕明	内、整外、リハ、呼	20.05.01
医）東湖会北浦診療所	行方市	新村光司	内、外、整外、皮、泌、小	20.05.01
かねこ整形外科クリニック	守谷市	金子正剛	整外、リウ、リハ	20.07.01
なかざわクリニック	つくばみらい市	中澤　哲	胃腸内、外、内	20.08.01

◆指定取消医療機関◆

医療機関名	所在地	理由	取消日
しもふさクリニック	結城市	閉鎖	19.10.15
西新道外科医院	龍ヶ崎市	休止	20.03.31
医）清心会勝瀬眼科医院	ひたちなか市	廃業	20.08.22

編集後記

福田首相の突然の政権投げだしの後を受けて、積極財政の麻生政権が誕生した。小泉悪政の後３人目の首相誕生である。中村先生が巻頭言で書いているように高度成長期にはまさに日出ずる国の未来はバラ色に輝いていた。「ジャパン　イズ　ナンバーワン」とおごっていた頃までは、無能な首相であろうとも任務を全うできた。しかしながら、失われた１０年以後官僚に操られるような無責任な首相しか誕生しなかった。現在の閉塞感はまさに自民党単独支配の制度疲労によるものである。我々自身が変わらなければならない。

１６年９月に筆者は、「労災保険診療費指導委員会」の委員に任命された。うかつにもそれまでは「労災指導委員会」の仕事内容を知らなかった。指導委員会規定では「労働者災害補償保険法療養の給付又は療養に要する費用に係わる請求書等の審査を行う」と規定されている。すなわちレセプトの審査委員会のことであった。後藤前会長に「指導委員会は査定委員会ではない」ことを心にとめて審査するようにと指導された。わずか４年間であったが欠席することが多く、他の委員の先生方にご迷惑をおかけした事をお詫びしたい。

ところで、最近レセプトに関して文書照会が増えていたことに気づいているだろうか。労働局に問い合わせたところ会計検査院の指導により照会が増えたとのことである。些末なことを照会しないようにと抗議しておいた。各医療機関にアンケートを取り、労働局と交渉する事も必要ではないかと考えている。

今回から後藤先生に代わり石井先生が指導委員会だよりを担当している。つまらないことで文書照会されたり、減点の対象になったりしないように参考にして頂きたい。　（小松記）

題　　字：石島弘之先生
イラスト：高木俊男先生